

# 第129回 創薬科学セミナー (Zoom 開催)

## GTR セミナー / CIBoG セミナー

このセミナーは創薬科学研究科・先端薬科学特論の単位認定となります

日時: 2020年11月26日(木曜日) 13:00~14:30

参加希望者は、

[https://docs.google.com/forms/d/1bOl\\_y4D2FDT9nbqTazSQdAOILK3BfBssBwkBSOk\\_IQo/edit?edit\\_requeste d=true&fbzx=-1847569577656565397](https://docs.google.com/forms/d/1bOl_y4D2FDT9nbqTazSQdAOILK3BfBssBwkBSOk_IQo/edit?edit_requeste d=true&fbzx=-1847569577656565397)

にアクセスし11/20までに事前手続きをお願いします。



講演タイトル:

## メタボリックシグナリング: 解糖系代謝物によるTORシグナルの活性化

講師: **井上 善晴 博士**

京都大学 農学研究科 応用生命科学専攻

分子細胞科学講座 エネルギー変換細胞学分野 教授

従属栄養生物は常に環境中の栄養状況を感じ、外界から有機物を取り込んでエネルギーを生産する。しかしその一方で、過剰な栄養摂取は細胞の恒常性に変動をきたす。また、代謝機構の破綻は種々の疾患の原因にもなる。今回のセミナーでは、エネルギー生産の中心代謝系である解糖系から発生する反応性の高い代謝性ストレス因子として、メチルグリオキサール(MG)という2-オキソアルデヒドに着目する。とくに、MGとTOR(target of rapamycin)シグナルとの関連について出芽酵母と動物細胞を用いて検討した結果を紹介するとともに、MGによるインスリン抵抗性モデルの可能性について議論したい。

参考文献:

1) Mol. Cell. Biol., 35:1269-1280, 2015. 2) J. Biol. Chem., 292:15039-15048, 2017. 3) Cell. Signal. 31:146-153, 2107. 4) Biochem. J., 475:2637-2652, 2018. 5) Sci. Rep., 10:13887, 2020.

連絡先: 創薬科学研究科 分子微生物学分野  
饗場浩文 (aiba@ps.nagoya-u.ac.jp 内線6803)